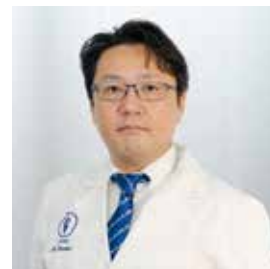


難治性軟便(慢性腸症)の犬に ファイア抽出「糖鎖TPG-1」※を与えた一例

※日本獣医ファイア研究会作成のガイドライン基準を満たした犬猫用ファイア製品



症例提供 井上 明 先生 日本獣医がん学会獣医腫瘍科認定医I種

症例について

10歳10ヶ月／去勢済み／フレンチブルドック／10kg
2023年1月より軟便にて他院で治療を受けていました。
ブチルスコポラミン・サラゾスルファピリジン・カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム・サイリウムを6か月間内服するも改善せず、当院にセカンドオピニオンを求め受診されました。
元気食欲はあり、一般状態も良好でした。

経過と結果

2023年6月当院初診時超音波検査にて十二指腸領域に炎症を疑わせる十二指腸壁の肥厚と一部コルゲートサインのような部位も認められ、さらに小腸壁の肥厚も認められました。
難治性であり超音波検査にて異常を疑わせる部位が認められたので、内視鏡による消化管粘膜の組織生検及び病理組織学的検査を飼い主に提案したところ、今後の事を考えると検査して病気を明らかにしたいとの希望で、第7病日に実施しました。
病理組織診断は、下記の結果でした。

胃 : リンパ球形質細胞性胃炎、軽度の水腫を伴う
十二指腸 : リンパ球形質細胞性腸炎
軽度の絨毛リンパ管の拡張を伴う
大腸 : 著変認めず

病理組織診断を踏まえてプレドニゾロン(1mg/kg)1日一回の投与と犬猫用ファイア製品(付属のスプーン2杯)1日一回を内服してもらったところ第40病日に軟便が改善。プレドニゾロンを(0.5mg/kg)1日一回に変更して犬猫用ファイア製品も(付属のスプーン1杯)減量した。

さらに70病日、便の形状は正常であり、プレドニゾロンを(0.25mg/kg)1日一回に変更して犬猫用ファイア製品(付属のスプーン1杯)は同量を継続し経過観察としました。

100病日にプレドニゾロンの副作用により多飲多尿が重度で飼い主が他の治療法を模索したいとのことでシクロスポリン(5mg/kg)1日一回に変更するが、シクロスポリンを内服すると

軟便になるとの事でシクロスポリンを3回投与したところで飼い主判断にて休薬しました。114病日、便の形状は正常で一般状態は問題なく超音波検査でも異常は認められませんでした。
160病日経過の段階で、リンパ球形質細胞性腸炎の治療は西洋薬の投薬なし、犬猫用ファイア製品(付属のスプーン1杯)のみ継続で約50日ほど経過していますが軟便にならず良好な状態を保っています。

考察と感想

慢性腸症の病態はまだまだ不明な点が多いですが、慢性腸症は腸粘膜の異常な免疫応答が関わっていると考えられています。本症例は西洋薬を休薬して約50日ほど経過していますが、犬猫用ファイア製品により免疫力を高めることにより難治性であった慢性腸症をおさえていると考えられました。
腸粘膜の異常な免疫応答を犬猫用ファイア製品にてコントロールしていると考えられました。
今後も経過観察とともに慢性腸症に罹患している症例に積極的に使用していきたいと思えます。

